

平成12年（2000年）3月15日発行

学位取得おめでとう さあ、これからが本番!!

本日ここに学位記授与式を迎えられた、学部ならびに大学院の学生諸君 おめでとうござい
ます。私は、諸君の多くが厳し
い就職戦線のなかで苦闘され、
社会人として第一歩を記される
ことに、敬意を表します。

よく世間では「若いときの苦
労は買ってでもせよ」といわ
れますが、見方を変えれば、諸
君の就職戦線下でのその苦闘は、
いずれ忍耐力や挑戦心の養育剤
となって作用するに違いないで

「卒業おめでとう」ございます。
「埼玉県の言葉が聞こえる」と、
つい振り返り癖がついた」とは、
昨年出版された本学後援会の県
支部設立二十周年記念誌、日本
一短い手紙という欄からの引用
です。卒業の日を待ち望んでお
られるご両親のお気持ち伝わ
つてきて感動しました。卒業生
諸君は、これまで育んで下さっ
たご両親に改めて感謝の意を表
して頂きたいと思います。

二千年という区切りの良い年

に学窓を巣立つ諸君が主役とな
る二十一世紀は変革の社会とな
りましようが、唯一、変わらない
のは日本が資源の乏しい国だ
ということ、日本経済を支える
のは製造業だということでは
ありません。

昨年三月に国会で「ものづく
り基盤技術振興基本法」が成立
しました。この法律は一九九五
年に成立した科学技術基本法と



並んで、二十一世紀の日本の科
学技術を支え、発展させるた
めの車の両輪といわれています。
科学技術基本法は、社会的経
済的ニーズに対応した研究開発
の強力な推進と基礎研究の積極
的な振興、そして柔軟かつ競争
的で開かれた研究環境の実現の
ための施策を示し、科学技術関

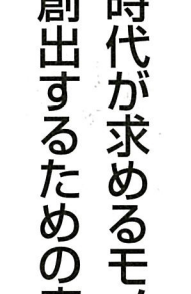


連の巨額な予算の一部が大学に
も配当されました。

ものづくり基盤技術振興基本
法は、我が国の製造業に長年蓄積
されてきた高度の熟練に関する
技術・技能・情報・知恵を伝承
する後継者の養成を積極的に行
うこと、そして更に高度な技術
と技能の開発の推進を目指して
います。この法案の制定は、製

慮したモノや空間づくりを推進
して行くかあります。本学が、
このほど資源有効活用の見地か
ら採用した本館耐震工事ならび
に、国内の大学では最大規模の
太陽光発電システムを導入致し
ましたのも、すべては環境重視
に根ざしていることです。

ちなみに、ソーラー発電能力
は、三〇〇KWと総需要電力量



しょう。今後、職場での辛いこ
と、あるいは仕事の壁に直面し
た際には、ぜひ社会へ第一歩を
踏み出すときに体験された苦労
を思い返し、ことに取り組んで
頂きたい、と切望致します。

さて、重々ご承知のことと存じ
ますが、諸君がエンジニアとし
て活躍される二十一世紀の最大
テーマは、いかに「環境」に配



はコンピュータソフトやデザイ
ン等の品物といえない製品を含
むからであり、「ものづくり」は全
く新しい商品を創造開発するこ
う意味です。

昨年暮れに小犬の形をしたロ
ボットAIBOが限定一万台で
発売されました。値段が二十五
万円に対して応募者数は何と実
に十三万五千件、長い不況で購

て、卒業生諸君は、残念ながら
身近にその研究成果にふれ得ま
せん。けれども本学には、OB
諸君に対する技術支援の窓口と
して産学リエンセンターが設
置されております。従って、も
し職務や自身のテーマに即した
開発研究上データ参照等の必要
が生じた場合は、ご遠慮なく担
当部門にご相談下さい。



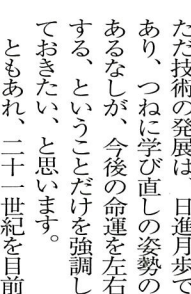
の二〇〇に過ぎません。しかし
ながら、この意義は、その装
置を活かし、より効率の高いエ
ネルギ獲得の技術開発に寄与
したいという点にあり、国の機
関である（NEDO）新エネル
ギ産業技術総合開発機構との
共同研究に採用されていること
が、そのあかしであります。

大学院に進学する諸君を除い



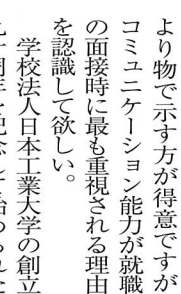
「ものづくり」という言葉は
これまで「物作り」と書かれる
場合が多かったのですが、平仮
名で書いてあります。「もの」

むろん環境対応のモノや空間
づくりは、太陽光エネルギー利
用のみに限らず、多岐にわたる
ます。ゆえに、それを見定める
ためには、第一に、幅広くかつ
深い識見。そして第二に、時代
に先駆けた高度な技術が必要と
します。言い換えれば、それら
の条件を満たすには、在学中に
上に、不断の学習や旺盛な研



めには、技術以前の問題として
生活者が何を求めているかを検
討する社会的知識。あるいは
ユーザーの美意識を満たすデザ
インセンスなどが不可欠であり、
それらを総合して、はじめて的
確なコンセプトが創出できる
ということ。

第二の技術的問題に関しては、
もう多言を要しないでしょう。
ただ技術の発展は、日進月歩で
あり、つねに学び直しの姿勢の
あるなしが、今後の命運を左右
する、ということだけを強調し
ておきたい、と思えます。



学習と堅苦しく考えずに、業務
に関係なく、いろいろな事に挑
戦して多くの経験を積み、面白
い人間に育つことを期待してい
ます。経験で得た知識を自分の
ものにする最良の方法は、その
経験を文章に表現して整理し直
すことです。

開発では自分のアイデアを関
係者に納得してもらうことが重
要。技術系の学生は、口で言う
より物で示す方が得意ですが、
コミュニケーション能力が就職
の面接時に最も重視される理由
を認識して欲しい。

留学生別科修了式 12名が学部等に進学



謝辞を述べる修了生代表



指導の先生方と喜びの握手

修了生の一年間の努力に対
する賛辞と将来に期待する
旨の告辞が述べられた。

次いで記念品（岩波国語
辞典）が代表の さん
（中国）に、また修了生を代
表して
君（サウジアラビア）よ

りお世話になった大学関係
者へ謝辞が述べられた。

今年度の修了生は、二十
七名（内女子十七名、うち十
一名が本学の学部に進学、
一名が研究生としてさらに
研鑽を積む予定である。
また、式典終了後の正午



左より松田、新藤、松田の三先生（バックは受賞ポスター）

葉県木更津市で開催された
国際会議 ICCE'99
（International Conference on
Computer in Education）に
投稿した英文論文が、Best
Poster Award（最優秀ポ
スター賞）を受賞した。

投稿論文のタイトルは、
Program Reading Practice
using Programming Training
Kit: WinTK。この論文はC
Gアニメーションを利用し
て、プログラミング経験の
ほとんど無い学生にC言語
プログラミング技法を教授
する独自の教授方法につ
いて報告したものである。論文は
このために開発した教材ソ
フトウェア WinTK の構造
と特徴についても詳しく報
告しており、会場にパソコ
ンを持ちこんでのデモンス
トレーションも行ったこと
である。この教授方法

による講座「プログラミン
グ基礎・演習」は、情報工
学科の一年生に対して五年
前から実施されており、そ
の成果である学生達の課題
作品の紹介や、講座終了後
の修得項目の評価などが詳
細にわたり論文内に報告さ
れている。

ポスターセッションでは、
多くの来場者の興味を引い
たため黒山の人だかりが
でき、押し寄せる質問に答
えきれない熱狂的な雰囲気
であったということである。

ICCEは、コンピュ
ータを高等教育に活用するた
めの研究論文を全世界から
公募する国際会議で、一九
九九年度は四十五カ国から四
八八本の論文が投稿され、
査読審査で四二二本が採択
された。この中から十二本
の論文が各種の賞を受賞し
たが、日本人が受賞したの
は本論文を含めてわずか二
本であった。

今春から学科定員が二〇
〇名に増員認可となったが、
かかる授賞は、学科隆盛の
一つの弾みとなる。

情報工学科の三先生が 栄えある国際学会賞!!

情報技術センターの松田
洋助手と情報工学科の新藤
義昭助教授、松田實助教授
が、一九九九年十一月に千

機械工学科

平成
十二年度
卒業生一覧
三月二十日付
確定者

電気電子工学科

建築学科

システム工学科

情報工学科



大学院工学研究科修了生

■ 博士後期課程

【機械工学専攻】

■ 博士前期課程

【機械工学専攻】

【建築学専攻】

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

◎ 学位記授与式
三月二十日（月）

私立学校施設整備費補助金 私立大学等研究設備整備費補助金

交付決定

平成十一年度私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金の交付が、以下の通り決定した。

●私立学校施設整備費補助金

●研究装置（一般）

「積層造形システム」→機械工学科佐々木教授（事業経費Ⅱ五十八万九千四百六十六円）補助金決定額Ⅱ二千九百四十七万三千円

射出成形が可能なラビッドソーリング装置を中心にラビッドプロトタイプングを含めたラビッドマニファクチャリング（迅速製造）技術開発に関する総合的研究を行うことを目的としている。

●研究装置（一般）

「多室真空熱処理炉」→機械工学科柳沢教授（事業経費Ⅱ八十八万三千円）補助金決定額Ⅱ四千四百五十万

「医療用チタン繊維多孔質材料（チタン及びチタン合金を繊維化し、その繊維を用いて繊維多孔質焼結体としたものを医療に応用しようとするものである）」の研究開発に、大いに威力を発揮するものと思われる。

●研究装置（一般）

「新製作方式歯車の製作・評価システム」→機械工学科有賀助教（事業経費Ⅱ五千四百二十八万五千円）補助金決定額Ⅱ二千七百十四万

本装置導入により現在研究中の曲線歯すじ歯車やヘルポイドギヤ、そしてペペルギヤの歯切り及び精度評価などの研究のさらなる発展が期待できる。

●研究装置（一般）

「骨固定手術用デバイスの力学適合性測定装置」→機械工学科玉木教授（事業経費Ⅱ五千三百二十三万五千円）補助金決定額Ⅱ二千六百六十一万七千円

高齢者の骨に関連する疾患の手術治療法として種々の手術デバイスが利用されているが、必ずしも満足のものではない。そこでこれらデバイスの力学的特徴を比較検討し、新しいデバイス開発の指針を得ようとするものである。

●研究設備（特別設備）

「国際標準級インパルス校正装置」→超高压放電研究センター協本講師（事業経費Ⅱ三千六百九十九万七千五百円）補助金決定額Ⅱ一千九百六十八万五千円

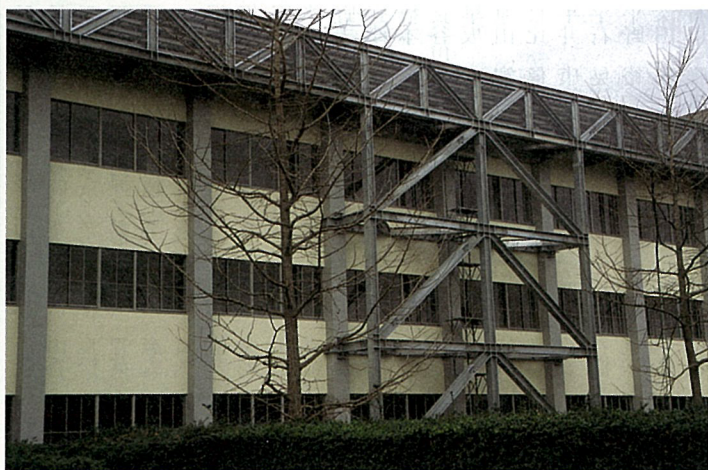
これまで校正方法に関する研究を独自に行ってきたが、本装置導入により、わが国独自の国際標準級の校正技術全体が確立することとなり、国際標準級インパルス測定システムの整備に関する研究が速やかに遂行できると思われる。

●情報処理関係設備

「インターネット対応型情報技術教育システム」情報技術センター樺澤教授（事業経費Ⅱ二千七百三十九万九千六百円）補助金決定額Ⅱ一千二百六十六万七千円・継続

本館の耐震および 太陽光発電工事終る

既報のように、昨夏より行われていた耐震及び太陽光発電工事が、この三月末に、完成の運びとなった。詳細は、いずれお伝えしたい。



耐震構造の基底部分

工友会の事務局が独立

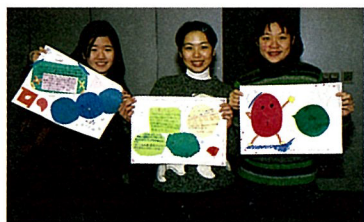
これまでの学生課内に設置されていた本学同窓会組織「工友会」の事務局が独立し、一号館三階の中央に開設されることとなった。

新しい事務局は、ガラス張りの明るいカウンターを持ち、広さ二九九㎡と、現在よりも各段に大きくなっている。さらには近年は

台湾高苑技術学院 本学で短期日本語研修

本学と国際学術協定を結んでいる台湾の高苑技術学院より、本年度も生徒三十名（男子三名、女子二十七名、引率教師二名）による、一月十一日（火）より十四日間、日本語研修のため本学に滞在した。

一行は、同校の応用外国語科日本語課程（日本の高校三年生に相当）の生徒達で、留学生別科での日本語の研修を皮切りに、地元でのホームステイや米沢の天元山荘でのスキー教室、宮代町の「国際交流の集い」



研修の感想をイラストで表現

県内工高生の意欲作集う!!

さる二月十五日、本学の学友会館にて（第一〇回）工業教育研究会が開催された。

参加校は十六。本学は毎年、未来あるエンジニアの卵たちのために、会場の提供や審査面などについて支援を行っていただいているが、いつもながら、工高生たちの真摯な発表に取り組み姿勢には、たいへん心うたれるものがあった。

なお、本年度の入賞校は以下の通り。

「最優秀校」県立熊谷工業高等学校「第六回かわさきロボット競技大会出場四足歩行型ロボット」K T R E V O

「優秀校」県立久喜工業高等学校「樹木の泰散による環境調査」県立新座総合技術高等学校「新化粧品デザイン及びキャンペーン計画」県立秩父農工高等学校「紙自転車」研究・製作について「イ・サイクル」

次年度も、工高生たちの成果に期待したい。



新入試方式導入の成果か?

平成十二年度一般入試が二月十二日、十三日、十四日の三日間にわたり行われ、三十三名（対前年比五八・二％増。B方式が六十六名（対前年比六・五％増）であった。

情報工学科増員に認可!!（定員二〇〇）

タイ国の院生 博士号取得

平成十二年三月二〇日、本学より「超音波振動を利用した精密塑性加工法」に関する基礎的研究に、より博士（工学）を授与。研究は精密塑性加工工具に人間に聞こえない周波数51KHz以上の超音波を与える加工法に関するもの。

氏タイ国キングモンクット工科大学の俊英で、平成七年四月に本学大学院修士課程へ入学のために来日。以来五年間にわたる研鑽の末、ついに博士号取得に至ったものである。

氏タイ国キングモンクット工科大学の俊英で、平成七年四月に本学大学院修士課程へ入学のために来日。以来五年間にわたる研鑽の末、ついに博士号取得に至ったものである。

編集後記

春です。木々が芽吹き、色とりどりの花々が街に溢れ、あたたかい日差しに包まれます。私たちの心までも明るく豊かになります。

人事異動

退職（十二月三十一日付）

船橋 昭光（総務部施設管理課職員）

定年退職（三月三十一日付）

岸 敬二教授（電気電子工学科）

高西忠司教授（情報技術科）

国外出張

（1～2月）

波多野 純教授（建築学科）／出張先「オランダ（1/4～1/9）目的「オランダ商館長が持ち帰った近世大工道具に関する調査・研究のため」

大野修一助教授（共通系）／出張先「台湾（1/16～1/22）目的「数理解析とその応用に関する国際会議に参加・研究発表のため」

星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「アメリカ（2/20～2/19）目的「遠隔教育に関する研究のため」

カ（1/24～1/28）目的「IS&T/SPE/S2/Information at Symposium Electronic Imaging 2000調査のため」

市橋 重勝教授（建築学科）／出張先「ニュージーランド（1/29～2/5）目的「第12回世界地震工学会議出席のため」

丹羽 次郎助教授（情報工学科）／出張先「アメリカ（2/20～2/19）目的「遠隔教育に関する研究のため」